



大分市長

佐藤 樹一郎

東北医科薬科大学

賀来 満夫

特任教授

私たちの日常を大きく変えた 新型コロナウイルス感染症

今回は、大分出身で国内の感染症対策の第一人者である賀来満夫先生をゲストにお迎えし、新型コロナウイルス感染症の状況や今後について伺いました。



賀来 満夫 特任教授

- ・大分県出身
- ・東北医科薬科大学 医学部 感染症学教室 特任教授
- ・東北大学 医学部 名誉教授・客員教授
- ・東京都参与

財前 ここまで大分市の感染状況をお伺いしましたが、賀来先生はどのような傾向にあると思われますか。

賀来 県内でも第2波はあったものの、それほど大きな波にはならなかった。ただ、昨年10月後半から全国的に感染の波が押し寄せ、大分も同じように感染者が増えています。比較的にコントロールされているのではないのでしょうか。私は大分県出身なので毎日のように大分の感染発生状況を見ていますが、県も市も濃厚接触者

要だと考えています。感染症法第16条にも、自治体の責務として、自治体は感染拡大防止のために必要な情報を積極的に公表しなければならないという規定があります。

不特定多数の方がお見えになるお店でしたので、店名を公表させていただきます。ただ、そのお店からも積極的にご協力をいただけたことが大変ありがたかったです。大分は産業都市ですので、市内のお店には全国からお客さまがお見えになります。そうした方々に対して、有効な情報の発信ができたと思っています。



聞き手 財前真由美
(フリーアナウンサー)

財前 専門家の先生からそういった評価をいただけると、市民にとっても一つの安心材料になりますよね。続いて佐藤市長、医療・検査体制について教えてください。

市長 はい、医療・検査体制をしっかり確保することが大切だと考えております。市では専門ダイ

がある程度特定されていますので、全国と比べると早い段階で上手くコントロールできていると思います。

これからもまだまだ注意が必要ですが、市民・県民の方々が「自分たちが感染させない・感染しない」という意識を持って、ユニバーサルマスク（互いにマスクを着用すること）でコントロールしていただければいいと思います。

市長 最初に感染者の発生を確認したのは昨年3月3日でした。市では、この日から4月下旬ごろまでが第1波に当たるのではないかと思います。全国でさまざまな対応が行われましたが、本市では学校の臨時休校や市施設の全部または一部を利用停止して感染拡大に備えました。

昨年7月下旬には103日ぶりとなる陽性者を確認し、9月初旬にかけて第2波が訪れました。ただ、第1

波のときの経験があったので、感染防止の取り組みをしっかりとしながら「やるべきことをやっていこう」と、いろいろなイベントを再開しました。

そのような中、第3波が発生しました。それまで28日間陽性者が発生していませんでしたが、昨年11月14日に陽性者を確認して以降、第1波・第2波と比べてもはるかに多い感染者増加となりました。第3波は、会食の場などでマスクをはずしてお酒を飲みながら楽しんだ後に陽性者が増加するのが特徴かなと思います。

賀来 第1波が起こったときに、佐藤市長は非常に早い段階で感染が発生したお店の名前を公表する判断をされましたよね。全国の自治体の中でも極めて早い段階で店名の公表に踏み切ったわけですね。これは非常に重要なことで、もちろんお店にとっては影響がありますが、こうした積極的な情報公開が大きな効果を発揮したと思います。

市長 情報をしっかりと提供することで感染拡大を防止するのが大変重

財前 まずは、賀来先生。新型コロナウイルス感染症の世界的・全国的な状況について教えてください。

賀来 今後しっかりと対応をしなければもっと増えていく可能性がありますが、医療体制も逼迫していますし、何よりも重症化している患者さんが多くなっています。それをどう防いでいくか、緊張感をもって対応していかなければならない非常に重要な時期に来ていると思います。

財前 では佐藤市長。新型コロナウイルス感染症を受けて市としてどのような準備をしてきたのか、またこれまでの感染状況について教えてください。

市長 最初に感染者の発生を確認したのは昨年3月3日でした。市では、この日から4月下旬ごろまでが第1波に当たるのではないかと思います。全国でさまざまな対応が行われましたが、本市では学校の臨時休校や市施設の全部または一部を利用停止して感染拡大に備えました。

昨年7月下旬には103日ぶりとなる陽性者を確認し、9月初旬にかけて第2波が訪れました。ただ、第1